

い
ず
み
さ
の
教
育



問合先
学校教育課

多文化共生社会の実現をめざして

今から25年前、国内初の完全24時間運用可能な関西国際空港が開港しました。それ以来、世界の玄関口となった泉佐野市には、ここ数年たくさんの方々が訪れるようになってきています。

泉佐野市に住む外国人は、平成26年3月に千人を超え、令和元年8月現在2,065人と、この5年で約2倍になっており、家族とともに泉佐野市にやってきた外国籍の子ども数も増加しています。泉佐野市にやってきた外国籍の子どもの中には、日本語をほとんど話せない子どももいます。慣れない土地で、聞こえてくる言葉がわからず、自分の思いもうまく伝わらない。大人でさえ、そのような立場になったなら、とても不安な気持ちでいっぱいになるのではないのでしょうか。

学校に派遣して学校生活の支援をおこなったり、日本語指導の時間を設けるなど、コミュニケーション活動や基礎的学力の定着に向けたサポートをしています。

また、市内の小・中学校では、外国籍の子どもや外国にルーツがある子どもが、日本の文化や生活を学ぶとともに、自分の母語や母国の文化に誇りをもてる教育の推進をしています。これは、国籍などにかかわらず、一人ひとりの人権を大切にすることもありません。

泉佐野市では、今後お互いの文化を知り、ともに学び、ともに育つ「多文化共生」の教育を進めていきます。

日本語に不安のある子どもたちのための通訳につきましても、学校教育課までお問い合わせください。

学校園紹介



障がい者スポーツを体験して
～日新小学校～

本校は「一人ひとりを生かす教育」を推進し、「個性の伸長に努め、生きる力を育む」を教育目標として、日々、教育活動にとりこんでいます。教師の指導力や人権感覚を高めるために、年間を通じて校内研修も行っています。



8月には、大阪府立障がい者交流促進センター（ファインプラザ大阪）から講師をお招きし、障がい者スポーツ（ボッチャ、フライングディスク、ふうせんバレー）の体験を通して、障がいへの理解を深めることができました。体験中は、「とても楽しい」「もっとやりたい」「子どもたちにも体験させたい」という声がたくさん上がりました。途中、数名だけアイマスクをつけて競技に入る場面がありましたが、研修の最後に、「本当に視覚障がい者の立場に立っていたか」を考えさせられるお話がありました。「ただ単に、自分たちが楽しんだだけではなかったか」と、ハッとさせられました。子どもたちに体験させる時にも、このような気づきをさせることが、とても大切だと感じました。

これからも、一人ひとりの個性をお互いに認め合いながら、自分も相手も大切にできる子どもを育てていきたいと思えます。



人と人がつながる保育をめざして
～のぞみこども園～

のぞみこども園では、5歳児は昨年度から、4歳児は今年度から1号認定児（幼稚園の時間帯で過ごす子どもたち）と2号認定児（保育所の時間帯で過ごす子どもたち）が同じクラスで過ごしています。様々な体験の中で自分の気持ちに気づき、表現することや、人との関わりの中で相手の気持ちを感じることができるよう、心の触れ合いを大切に仲間づくりをめざし、日々の保育に取り組んでいます。

【めざす子ども像】

- 友達を思いやり、認め合う子ども
- 人の話を聴き、自分の思いを表現できる子ども
- 興味をもって取り組み、やり抜く子ども
- 自分で考え、自ら行動できる子ども

【大切にしていること】

交流活動…毎月0～3歳児と4・5歳児に分かれて誕生会を行い、たくさんの人に祝福してもらう機会を大切にしています。誕生会以外にも日々の保育の中で、年長児への憧れの気持ちや年少児への思いやりの心が育つよう、異年齢での交流の時間を積極的に設定しています。



また、今年度から保護者の人に「先生」として、保育に参加していただく中で、子育て・子どもとの関わり方などのヒントをもち帰っていただくことを目的とした「保育参加」という行事を始めました。時間は2時間程度でしたが、いくつかの遊びの中から好きなものを見つけて、遊ぶことを満喫した4・5歳の子どもたちはもちろんのこと、先生としてかわる保護者の人も笑顔がいっぱいの取組となりました。

【子育て支援事業】子育て中の人が集ってつながりをもてるように、遊びの教室・園庭開放・施設開放・0歳児育児教室を開催し、地域に根ざした子育て支援事業を行っています。